

平成 28 年度

病虫害発生予察情報 第 11 号

7 月月報

北海道病虫害防除所 平成 28 年 8 月 16 日

http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/
Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

I. 気象概況 札幌管区气象台発表 北海道地方気象速報

－『並温・多雨・並照』日照時間の地域差大きく、月末には全道各地で連日大雨－

この期間の天気は、上旬は数日の周期で変わったが、中旬は気圧の谷や湿った気流の影響で曇りや雨の日が多かった。下旬前半は日本海側やオホーツク海側で晴れた一方、太平洋側では湿った気流の影響で曇る日が続いた。下旬後半は前線や湿った気流などの影響で雨が降り、27～31日は各地で大雨となって土砂崩れなどが発生した。気温は、いずれの旬も平年並で、月平均気温も平年並だった。降水量は上旬は平年よりかなり多く、下旬は多く、月降水量も多かった。日照時間は上旬と中旬は平年より多く、月間日照時間は平年並だった。

上旬：1日は高気圧の張り出しの中で全道的に晴れた。2日は前線を伴った低気圧の影響で全道的に雨が降り、大雨となった所もあった。日降水量は登別市カルルスで 147.0mm など。3日は前線を伴った低気圧が通過し雨の降った所が多かったが、十勝地方では晴れた。日降水量は羅臼で 64.5mm など。4日は気圧の谷や冷たく湿った気流の影響で日本海側やオホーツク海側で雨が降ったが、日本海側は次第に晴れた。5日は高気圧に覆われて晴れた所が多かったが、オホーツク海側では冷たく湿った気流の影響で雨の降った所があった。6日は高気圧の張り出しの中で日本海側やオホーツク海側は晴れたが、気圧の谷や湿った気流の影響で太平洋側西部などでは雨が降った。7～8日は高気圧の張り出しの中となつて広い範囲で晴れた。9日は低気圧や気圧の谷の影響で日本海側やオホーツク海側北部で雨が降ったが、高気圧の張り出しの中で晴れた所も多かった。10日は上空に寒気を伴った低気圧の影響で全道的に雨が降り、大雨となった所もあった。日降水量は遠軽町生田原で 61.0mm など。

中旬：11日は低気圧や気圧の谷の影響で雨の降った所があったが、高気圧が張り出して日本海側など晴れた所もあった。12日は高気圧に覆われて全道的に晴れた。13～14日は湿った気流の影響により太平洋側で曇った所が多く、雨の降った所もあったが、日本海側やオホーツク海側では晴れた所が多かった。15日は気圧の谷の影響で曇って雨の降った所もあったが、日本海側などでは晴れた所もあった。16日は高気圧の張り出しの中で晴れた所が多かったが、湿った気流の影響でオホーツク海側などでは曇った所もあった。17日は気圧の谷の影響で雨の降った所が多かった。18日は低気圧を含む気圧の谷の影響で広い範囲で雨が降った。19日は上空に寒気を伴った低気圧の影響で広い範囲で雨が降った。日降水量は中標津空港で 50.5mm など。20日は気圧の谷の影響で雨の降った所があったが、次第に高気圧の張り出しの中となつて日本海側などでは晴れた。

下旬：21日は高気圧の張り出しの中で晴れた所が多かった。22～25日は高気圧の張り出しの中で日本海側やオホーツク海側で晴れたが、太平洋側では湿った気流の影響で曇って雨の降った所があった。26日は上空の寒気や湿った気流の影響で太平洋側を中心に雨の降った所があったが、日本海側やオホーツク海側では晴れた所が多かった。27～29日は前線や湿った気流の影響で全道的に雨が降り、大雨となった所もあった。日降水量は 27日に登別市カルルスで 218.5mm、28日に浦河町中杵臼で 187.5mm、29日に稚内市沼川で 85.0mm など。30～31日は南からの暖かく湿った気流の影響で大気の状態が不安定となり雨の降った所が多く、大雨となった所もあった。日降水量は 31日に美瑛町白金で 96.5mm など。

気象表

	気温偏差℃	階級	降水比%	階級	日照比%	階級
北海道 22 地点平均	+0.4	並	132	多	108	並
日本海側 10 地点平均	+0.3	並	142	多	118	多
オホーツク海側 4 地点平均	+0.3	並	137	多	111	並
太平洋側 8 地点平均	+0.5	並	117	多	93	並

(注)階級分布図の気温・降水量・日照時間は、概ね「高(多)」、「並」、「低(少)」の3段階で表示します。各階級の幅は、平年値の作成期間(1981～2010の30年間)における各階級の出現率が1:1:1となるように決めてあります。なお、平年値作成期間内の上位、下位10%の範囲に入る場合は「か高(多)」、「か低(少)」(か→かなり)で表します。

II. 病害虫発生概況

A. 水稻

1. いもち病（葉いもち） 発生期 やや遅 発生量 やや少

予察田の「きらら397」における葉いもちの本田初発期は、岩見沢市および比布町では平年よりやや遅く、北斗市では平年より遅かった。発生量は、比布町では平年並であったものの、岩見沢市と北斗市では平年に比べ少なかった。

巡回調査によると、7月6半旬現在いずれの地点においても発生は認められていない。

予察田におけるいもち病の発生状況

地点	品種名	取り置き苗初発期		本田初発期		平年数
		本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	6月30日	6月29日	7月28日	7月23日	5
	ななつぼし	6月30日	6月29日	7月26日	7月19日	5
比布町	きらら397	6月22日	6月18日	7月17日	7月14日	10
	ななつぼし	6月23日	—	7月13日	—	—
北斗市	きらら397	6月22日	6月27日	7月28日	7月16日	10

注1)各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

注2)—は平年値なし

予察田における葉いもち発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	0	0.2	0	3.9	0	11.2	5
	ななつぼし	0	0.8	0	11.2	2	25.2	5
比布町	きらら397	0	2.4	0	14.4	24	28.2	10
	ななつぼし	0	—	0	—	22	—	—
北斗市	きらら397	0	0.2	0	2.8	3	10.2	10

注1)各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

注2)—は平年値なし

一般田におけるいもち病巡回調査結果

普及センター	地点数	発病株率(%)		普及センター	地点数	発病株率(%)	
		7月3半旬	7月6半旬			7月3半旬	7月6半旬
空知	本所	5	0	渡島	本所	3	0
	南東部	2	0		檜山	本所	2
	南西部	3	0	北部		2	0
	中空知	4	0	上川	本所	8	0
	北空知	7	0		富良野	2	0
石狩	本所	5	0		大雪	4	0
	北部	4	0	士別	2	0	
後志	本所	4	0	名寄	3	0	
胆振	東胆振	4	0	留萌	本所	3	0
日高	西部	3	0		南留萌	3	0

2. ニカメイガ 発生期 早 発生量 やや多

予察田のフェロモントラップにおける成虫の初発期は、長沼町および北斗市いずれにおいても平年より早かった。誘殺頭数は長沼町で平年より多く、北斗市では平年より少なかった。

予察田におけるフェロモントラップによるニカメイガの誘殺頭数

月・半旬	長沼町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	4	3.7	1	1.5
2半旬	23	5.4	0	1.5
3半旬	58	17.7	0	1.0
4半旬	9	13.6	0	3.4
5半旬	6	2.3	1	2.2
6半旬	5	15.8	1	3.3
初発期	6月22日	6月29日	6月15日	7月11日
平年数	4		10	

3. ウンカ類 発生期 ヒメトビウンカ(第2回)：やや遅、セジロウンカ：並 発生量 並

予察田におけるヒメトビウンカ第2回成虫の初発期は、北斗市で平年より早く、長沼町、比布町では平年より遅かった。予察田による成虫誘殺数は、平年と比較して北斗市で多く、比布町でやや多かった。一方、長沼町では少なかった。水田すくい取りによる成虫捕獲数は、北斗市では平年並だったが、比布町では平年よりやや少なく、長沼町では平年より少なかった。

予察田におけるセジロウンカの初発期は、北斗市では7月3日で平年より早く、比布町および長沼町では7月28日で、平年と比較して比布町ではやや遅く、長沼町は遅かった。予察田による成虫誘殺数は、長沼町では平年並で、比布町および北斗市では平年より多かった。水田すくい取りによる成虫捕獲数は、比布町および北斗市でやや多かった。長沼町では捕獲が認められなかった。

巡回調査によると、ヒメトビウンカ成幼虫の水田すくい取りによる捕獲数は、全 73 調査地点中最大でも 25 頭であり、吸汁害が発生する密度(成虫：1,800 頭、または幼虫：900 頭)に達した地点は認められなかった。

ヒメトビウンカ成虫の予察田誘殺数および予察田における水田すくい取り数

月・半旬	予察田誘殺数						水田すくい取り数 (20回振り×5日分換算値)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	0.2	0	0.7	0	0.0	0	0.6	3	0.9	0	0.3
2半旬	0	2.7	0	3.6	1	0.0	0	0.3	0	0.8	0	0.0
3半旬	0	12.8	0	9.6	0	0.3	0	1.3	8	5.1	0	0.3
4半旬	9	80.7	3	57.4	2	1.0	6	1.3	15.0	28.7	3	1.5
5半旬	0	102.7	41	288.1	1	1.2	8.8	17.8	15.0	64.9	2.5	2.0
6半旬	19	242.5	3016	2135.3	17	1.2	3	18.3	90.0	181.3	7.5	2.3
初発期	7月19日	7月13日	7月20日	7月13日	7月20日	7月26日						
平年数	10		10		10		4		10		10	

※初発期は第2回成虫

セジロウンカ成虫の予察田誘殺数および予察田における水田すくい取り数

月・半旬	予察田誘殺数						水田すくい取り数 (20回振り×5日分換算値)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	0.0	0	0.0	1	0.0	0	0.0	0	0.0	5	0.0
2半旬	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	5	0.3
3半旬	0	0.0	0	0.1	0	0.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4半旬	0	0.8	0	0.3	0	5.0	0	0.0	0	0.0	3	0.8
5半旬	0	0.3	0	0.5	0	2.3	0	0.3	0	0.0	0	0.3
6半旬	1	2.6	73	4.4	174	2.9	0	0.0	5	0.0	5	6.8
初発期	7月28日	7月16日	7月28日	7月25日	7月3日	7月29日						
平年数	10		10		10		4		10		10	

巡回調査によるヒメトビウカ成幼虫の水田 20 回振りすくい取り頭数

普及センター	地点数	7月6半旬		普及センター	地点数	7月6半旬			
		本年	昨年			本年	昨年		
空知	本所	5	0	0	渡島	本所	3	3.7	1.7
	南東部	2	0	0		檜山	本所	2	17.5
	南西部	3	0.3	1.5	北部		2	0	0
	中空知	4	0	0	上川	本所	8	2.1	2.5
	北空知	7	3.0	2.8		富良野	2	0	0
石狩	本所	5	0	1.5		大雪	4	8.3	1.5
	江別	4	0	0		士別	2	0	0.5
後志	本所	4	1.3	0.5	名寄	3	0	0	
胆振	東胆振	4	0	0	留萌	本所	3	0.7	3.0
日高	西部	3	0.5	0		南留萌	3	0	0

4. イネドロオイムシ 発生量 やや少

予察田における幼虫数は長沼町および比布町で平年より少なく、北斗市では平年よりやや多かった。被害率は長沼町および比布町で平年より低く、北斗市では平年並だった。

7月6半旬の巡回調査によると、被害率が10%以上だったのは空知、上川地方の各1地点にとどまり、被害率が5%を上回る地点はほとんどなかった。

予察田におけるイネドロオイムシの発生状況

月・半旬	水田見取り調査による幼虫数(25株あたり)						被害率(%)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	12.0	50.1	21	152.1	107.0	-	2.2	11.3	1.5	28.0	22.1	-
2半旬	31.0	73.4	27	85.4	99.5	74.9	4.0	14.9	2.5	30.3	27.4	31.5
3半旬	35.5	76.8	28	30.7	43.5	-	7.5	15.6	3.6	28.7	22.4	-
4半旬	61.0	61.1	3	10.1	32.5	10.3	12.2	20.0	3.5	29.8	28.4	29.2
5半旬	16.5	29.1	2	5.7	23.0	-	9.9	15.8	2.3	27.4	21.9	-
6半旬	3.5	1.4	-	2.5	3	4.5	6.7	11.6	-	26.6	18.7	23.1
平年数	4		10		10		4		10		10	

巡回調査によるイネドロオイムシの幼虫数および被害率

普及センター	地点数	幼虫数		被害率		普及センター	地点数	幼虫数		被害率			
		7月3半旬		7月6半旬				7月3半旬		7月6半旬			
		本年	昨年	本年	昨年			本年	昨年	本年	昨年		
空知	本所	5	1.6	3.4	2.0%	0.7%	渡島	本所	3	0	0	0%	0%
	南東部	2	2.5	0.5	0%	0%		檜山	本所	2	0	0	0%
	南西部	3	0.3	2.8	1.0%	6.3%	北部		2	0	0	0%	0%
	中空知	4	1.5	1.3	0.3%	1.0%	上川	本所	8	1.8	1.3	2.5%	0%
	北空知	7	0.9	0.4	1.3%	1.9%		富良野	2	4.0	0.5	0%	0%
石狩	本所	5	3.6	3.0	2.2%	2.7%		大雪	4	1.0	1.6	0.3%	0.6%
	北部	4	1.3	0.8	0.3%	0.6%		士別	2	0	0.5	0.5%	0.2%
後志	本所	4	0	0	0%	0%	名寄	3	6.0	0	0%	0%	
胆振	東胆振	4	0	5.3	0.8%	0.3%	留萌	本所	3	0	2.7	0%	3.3%
日高	西部	3	0	0	0%	0%		南留萌	3	0	0	0%	0%

幼虫数は25株あたり

5. アカヒゲホソミドリカスミカメ(第2回)

発生期 やや早 発生量 やや少

予察灯による第2回成虫の初発期は、長沼町では平年並で、比布町および北斗市では平年より早かった。予察灯による成虫誘殺数は、平年と比較して北斗市では多かったが、比布町ではやや少なく、長沼町では少なかった。予察田における水田すくい取り成虫数は、平年と比較して北斗市ではやや多かったが、長沼町では少なかった。比布町では捕獲されなかった。

7月6半旬の巡回調査において、水田すくい取りによる発生モニタリングでの追加防除の基準である捕獲数2頭以上(きらら397)である水田は、全73調査地点のうち、空知、上川の計7地点であった。

アカヒゲホソミドリカスミカメ成虫の予察灯誘殺数および予察田における水田すくい取り数

月・半旬	予察灯誘殺数						水田すくい取り数 (20回振り×5日分換算値)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	5	10.8	0	2.3	9	3.5	0	0.0	0	0.0	2.5	0.0
2半旬	9	34.1	0	2.6	33	4.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3半旬	6	130.1	0	3.3	4	17.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4半旬	101	229.5	1	4.8	128	33.9	1.3	1.3	0	0.5	2.5	0.3
5半旬	1	462.1	7	17.4	54	47.3	0	0.9	0	0.3	2.5	1.3
6半旬	49	761.5	58	52.4	204	61.8	0	6.6	0	0.5	0	2.8
初発期	7月9日	7月7日	6月30日	7月13日	6月30日	7月14日						
平年数	10		10		10		4		10		10	

巡回調査によるアカヒゲホソミドリカスミカメ成幼虫の20回振りすくい取り頭数

普及センター	地点数	畦畔				水田		
		7月3半旬		7月6半旬		7月6半旬		
		本年	昨年	本年	昨年	本年	昨年	
空知	本所	5	0.2	0	0	0.4	0	0
	南東部	2	0.3	0	0.2	0	0	3.5
	南西部	3	0	0	0	7.0	0	1.5
	中空知	4	1.3	0.8	1.5	1.8	0.8	0.3
	北空知	7	0.4	0.9	1.6	0.6	0.7	0.1
石狩	本所	5	0.2	1.3	0	4.5	0	0.7
	江別	4	0.3	0.5	0	0.8	0	0
後志	本所	4	1.8	0	0	0	0	0
胆振	東胆振	4	0.5	0.5	0	1.8	0	0
日高	西部	3	0	0	1.0	1.0	0	0
渡島	本所	3	0	1.0	2.1	2.7	0	0.3
檜山	本所	2	0	0	1.0	1.5	0.5	0
	北部	2	0	0	0	0	0	0.5
上川	本所	8	2.0	0.8	0.1	1.4	0	0.5
	富良野	2	0	0	0.5	0	0.5	1.0
	大雪	4	1.0	0	0	0.5	0.5	0.3
	士別	2	2.5	0	4.0	1.0	12.5	0.5
	名寄	3	0	0	0	2.3	2.0	0.2
留萌	本所	3	2.3	1.3	0	0	0	0.3
	南留萌	3	0.7	1.0	1.7	0	0.7	0

6. フタオビコヤガ 発生量 少

予察灯による成虫誘殺数は、比布町では平年より少なかった。長沼町および北斗市では誘殺が認められなかった。第2回幼虫による予察田の被害葉率は、北斗市では平年並だったものの、長沼町および比布町で平年より低かった。

予察田におけるフタオビコヤガの発生状況

月・半旬	予察灯誘殺数						被害葉率(%)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	7.0	13	78.6	0	11.1	0	0.6	0.1	1.2	0	-
2半旬	0	14.8	7	70.8	0	16.6	0	1.1	0.1	1.2	0.4	0.0
3半旬	0	74.9	4	22.3	0	9.8	0.1	1.4	0.3	2.5	0	0.0
4半旬	0	10.5	7	5.0	0	1.2	0	3.0	0.3	4.4	0.1	0.0
5半旬	0	5.5	2	20.6	0	4.0	0	3.2	0.4	6.0	0	0.0
6半旬	0	18.1	3	237.4	0	18.5	0	5.8	-	6.9	0	0.1
平年数	10		10		10		4		10		10	

注) - : 欠測

B. 秋まき小麦

1. 赤かび病 発生量 多

予察ほにおける主要品種「きたほなみ」での発生量は、長沼町、芽室町、訓子府町のすべての地点において平年に比べ多かった。発生菌種は、訓子府町では *Fusarium graminearum* の割合が高く、長沼町および芽室町では *Microdochium nivale* の割合が高かった。

予察ほにおける赤かび病発生状況

地点	品種名	病穂率(%)			病原菌別割合(%)			
		本年	平年	平年数	M.niv.	F.ave.	F.gra.	F.cul.
長沼町	きたほなみ	13.5	2.8	6	51.5	0	48.5	0
	チホクコムギ	32.5	5.3	10	73.5	2.0	24.5	0
	ホクシン	21.5	2.9	10	73.1	0	26.9	0
芽室町	きたほなみ	45.3	17.9	7	93.9	0	6.1	0
	チホクコムギ	39.8	35.9	10	97.0	0	3.0	0
	ホクシン	43.1	28.7	10	100.0	0	0	0
訓子府町	きたほなみ	19.3	9.7	7	22.0	30.0	48.0	0
	チホクコムギ	22.3	12.3	10	40.0	16.0	44.0	0
	きたもえ	16.7	10.0	7	22.0	28.0	50.0	0

注) M.niv: *Microdochium nivale*、F.ave: *Fusarium avenaceum*、F.gra: *F.graminearum*、F.cul: *F.culmorum*

2. アブラムシ類 発生量 やや少

予察ほにおけるムギヒゲナガアブラムシの発生量は、長沼町で上旬を除き平年並で、訓子府町では平年よりやや少なかった。ムギクビレアブラムシの発生量は、長沼町、訓子府町ともに平年より少なかった。

予察ほの秋まき小麦におけるアブラムシ類の寄生虫数(25穂)

月・半旬	ムギヒゲナガアブラムシ				ムギクビレアブラムシ			
	長沼町		訓子府町		長沼町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	14	1.3	3	33.4	0	3.4	0	11.7
2半旬	2	0.3	9	12.2	0	4.4	0	5.8
3半旬	1	0.8	15	3.9	1	4.9	0	2.0
4半旬	0	0.0	17	3.4	0	0.5	0	13.4
平年数	10		10		10		10	

C. 春まき小麦

1. 赤かび病 発生量 多

予察ほの「春よ恋」における発生量は、長沼町では平年に比べ多かった。発生菌種は、長沼町、比布町ともに *Fusarium graminearum* が主体であった。

予察ほにおける赤かび病発生状況

地点	品種名	病穂率(%)			病原菌別割合(%)			
		本年	平年	平年数	M.niv.	F.ave.	F.gra.	F.cul.
長沼町	春よ恋	76.0	15.8	4	9.3	1.9	88.9	0
比布町	春よ恋	2.0	—	—	3.3	0	96.7	0

注1)比布町の「春よ恋」は平年値なし

注2)M.niv:Microdochium nivale、F.ave:Fusarium avenaceum、F.gra:F.graminearum、F.cul:F.culmorum

D. 豆類

1. べと病(大豆) 発定期 やや遅 発生量 少

長沼町の予察ほにおける初発期は平年よりやや遅く、発生量は平年に比べ少なかった。

予察ほにおける大豆のべと病発生状況

地点	品種名	初発期		発病度						平年数
				7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	トヨムスメ	7月11日	7月8日	0.5	5.9	1.5	12.2	2.0	22.3	10

2. 菌核病(菜豆) 発定期 やや早 発生量 やや少

芽室町の予察ほにおける初発期は平年よりやや早かった。発生量は平年に比べやや少なかった。7月6半旬の巡回調査によると、一般ほにおいては、十勝地方の一部で発生が認められている。

予察ほにおける菌核病の発生状況

地点	品種名	初発期		発病度				平年数
				7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
芽室町	大正金時	7月22日	7月26日	0	0.1	1.3	5.3	10

一般ほにおける菌核病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)		普及センター		地点数	発病株率(%)	
			7月6半旬					7月6半旬	
胆振	本所	1	0		十勝	東北部	2	1.7	
上川	士別	1	0			北部	3	0	
網走	美幌	2	0			西部	3	0	
十勝	本所	2	0			南部	2	0	
	東部	3	0						

3. 灰色かび病（小豆・菜豆） 発生期 並 発生量 並

長沼町の予察ほ（小豆）における初発期は平年並で、7月6半旬時点で発生は認められていない。芽室町の予察ほ（菜豆）における初発期、発生量はともに平年並だった。7月6半旬の巡回調査によると、石狩および十勝地方の一部で小豆の灰色かび病、十勝地方の一部で菜豆の灰色かび病の発生が認められている。

予察ほにおける灰色かび病発生状況（小豆）

地点	品種名	初発期		発病度				平年数
				7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	しゅまり	8月2日	8月4日	0	0	0	0.3	10

予察ほにおける灰色かび病発生状況（菜豆）

地点	品種名	初発期		発病度				平年数
				7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
芽室町	大正金時	7月20日	7月21日	2.1	0.1	9.6	11.1	10

小豆の一般ほにおける灰色かび病巡回調査結果

普及センター	地点数	発病株率(%)		普及センター	地点数	発病株率(%)	
		7月6半旬				7月6半旬	
空知 本所	1	0		上川 富良野	1	0	
石狩 本所	3	1.0		大雪	2	0	
	1	0		士別	2	0	
後志 本所	2	0		名寄	1	0	
胆振 本所	3	0		留萌 本所	1	0	
	3	0		網走 本所	2	0	
檜山 本所	2	0		網走	2	0	
	2	0		美幌	3	0	
				十勝 本所	3	1.0	
				東部	6	0	
				東北部	4	0	
				北部	3	0	
				西部	3	0	

菜豆の一般ほにおける灰色かび病巡回調査結果

普及センター	地点数	発病株率(%)		普及センター	地点数	発病株率(%)	
		7月6半旬				7月6半旬	
胆振 本所	2	0		十勝 東北部	4	0	
上川 士別	1	0		北部	3	0	
網走 美幌	2	0		西部	3	0.3	
十勝 本所	2	0		南部	3	0	
	4	0					

4. アズキノメイガ (小豆)

発生期 やや遅 発生量 やや少

予察灯における初発期は、長沼町で平年よりやや遅かった。7月の誘殺数は、長沼町で3頭(平年:4.0頭)と平年並だった。芽室町(平年:2.2頭)および訓子府町(平年:0.8頭)では誘殺を認めていない。

予察灯におけるアズキノメイガ初発期

長沼町		芽室町		訓子府町	
本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月13日	7月10日	-	7月15日	-	-

5. 食葉性鱗翅目幼虫 (大豆・小豆)

発生量 やや少

予察ほにおける食害程度は、平年と比較して長沼町、訓子府町ともに大豆でやや低く、小豆では低かった。

予察ほの大豆および小豆における食葉性鱗翅目幼虫の食害程度(25株)

月・半旬	大豆				小豆			
	長沼町		訓子府町		長沼町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	7	15.8	0	7.4	3	12.3	3	3.4
2半旬	7	18.6	1	11.0	3	16.0	3	4.4
3半旬	12	28.2	2	14.6	3	19.4	1	7.4
4半旬	25	30.9	2	21.0	5	19.6	1	10.4
5半旬	26	37.0	10	25.7	9	18.7	0	12.7
6半旬	25	41.1	16	28.3	9	19.9	3	14.6
平年数	10		9		10		9	

6. ジャガイモヒゲナガアブラムシ (大豆)

発生量 やや少

予察ほの大豆における寄生虫数は、長沼町では平年並で、芽室町および訓子府町では平年よりやや少なかった。

予察ほの大豆におけるジャガイモヒゲナガアブラムシの寄生虫数

月・半旬	長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	4	2.7	6	2.0	2	4.2
2半旬	2	1.2	0	3.9	2	2.7
3半旬	2	0.4	1	5.3	1	3.0
4半旬	0	0.1	4	4.9	2	1.9
5半旬	0	0.6	0	4.1	0	1.4
6半旬	0	0.0	0	3.6	0	1.4
平年数	10		10		10	

注)25株の株あたり1茎について、上・中位の各先端1小葉、合計50小葉を調査

7. マメアブラムシ (小豆)

発生量 並

<7月7日付け注意報第2号発表>

予察ほの小豆における寄生株率は、長沼町および訓子府町では平年より低く、芽室町では高かった。

予察ほの小豆におけるマメアブラムシ寄生株率(%)

月・半旬	長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	16	32.4	46	19.2	4	9.5
2半旬	8	42.2	64	24.0	4	8.6
3半旬	8	38.2	84	23.1	4	8.0
4半旬	4	33.8	76	20.9	8	10.5
5半旬	0	19.6	16	20.4	8	14.5
6半旬	0	5.3	4	5.3	0	6.5
平年数	9		8		7	

注)25株調査

E. ばれいしょ

1. 疫病 発生期 やや早 発生量 やや多 <6月20日付け注意報第1号発表>

予察ほの「とうや」における初発期は、長沼町および北斗市では平年より早く、芽室町および訓子府町では平年より遅かった。発生量は長沼町、北斗市および芽室町では平年に比べ多く、訓子府町では平年に比べやや少なかった。

巡回調査の報告によると、一般ほにおいては、後志、胆振、渡島、檜山、十勝、根室地方で7月3半旬から発生が認められ、7月6半旬には上川、オホーツク地方でも発生が認められた。

FLABSによる初発期の予測は、長沼町の「とうや」および「スノーマーチ」において適合したものの、芽室町および訓子府町では適合しなかった。

予察ほにおけるばれいしょの疫病初発期

地点	品種名	初発期		平年数
		本年	平年	
長沼町	とうや	7月7日	7月16日	8
	スノーマーチ	7月8日	7月24日	7
北斗市	とうや	6月29日	7月9日	8
芽室町	とうや	7月16日	7月7日	10
	男爵薯	7月10日	7月9日	8
	スノーマーチ	7月18日	7月7日	10
	紅丸	7月18日	7月11日	8
訓子府町	とうや	7月23日	7月13日	8
	スノーマーチ	7月19日	7月12日	7

予察ほにおけるばれいしょの疫病発生状況

地点	品種名	発病度											
		7月1半旬		7月2半旬		7月3半旬		7月4半旬		7月5半旬		7月6半旬	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
長沼町	とうや	0	0.1	0	0.3	4.5	0.3	15.4	3.6	45.5	18.6	85.5	39.5
	スノーマーチ	0	0	0.5	0.1	7.0	0.2	21.0	3.1	43.5	10.7	67.5	30.5
北斗市	とうや	19.5	7.0	46	10.8	94.0	26.2	100	42.4	100	56.8	100	62.7
芽室町	とうや	0	0.9	0.5	4.6	2.5	18.6	25.5	42.0	83.5	61.4	100	86.2
	男爵薯	0	1.6	0	8.0	0	23.6	8.0	43.0	68.5	73.0	100	89.3
	スノーマーチ	0	2.9	0	5.9	0	18.9	0.5	32.1	28.0	53.4	99.5	77.4
	紅丸	0	2.0	0	6.9	0	19.8	2.0	42.9	26.5	66.2	100	84.0
訓子府町	とうや	0	0.1	0	3.3	0	7.4	0	16.6	4.0	32.2	43.0	53.9
	スノーマーチ	0	0.1	0	3.1	0	6.1	0.5	14.9	3.5	25.1	27	43.5

一般ほにおけるばれいしよの疫病巡回調査結果

普及センター	地点数	発病株率(%)		普及センター	地点数	発病株率(%)	
		7月3半旬	7月6半旬			7月3半旬	7月6半旬
空知 南東部	1	0	0	網走 本所	6	0	0
後志 本所	5	7.6	9.6	網走 清里	3	0	0
胆振 本所	2	1.5	12.0	網走 網走	2	0	2.0
渡島 本所	2	2.0	3.0	網走 美幌	2	0	1.5
檜山 本所	2	11.0	12.5	十勝 本所	4	1.3	0.8
檜山 北部	4	0	0	十勝 東部	6	0.5	5.3
上川 富良野	3	0	0	十勝 東北部	1	0	0
上川 大雪	3	0	0	十勝 北部	3	0	0.3
上川 士別	2	0	0	十勝 西部	3	0	0.7
上川 名寄	1	0	2.0	十勝 南部	3	0	2.0
				釧路 本所	2	0	0
				根室 北根室	3	0.7	0

予察ほにおけるFLABSの予測結果の適合性

地点	品種名	萌芽日	基準月日	予測日 初発日	70%信頼区間	初発日	判定
長沼町	とうや	6月6日	6月16日	7月4日	6/23 ~ 7/14	7月7日	○
	スノーマーチ	6月6日	6月16日	7月4日	6/23 ~ 7/14	7月8日	○
北斗市	とうや	5月17日	6月14日	7月2日	-	6月29日	-
芽室町	とうや	5月30日	6月16日	7月4日	6/23 ~ 7/14	7月16日	×
	スノーマーチ	6月5日	6月19日	7月6日	6/27 ~ 7/15	7月18日	×
訓子府町	とうや	6月3日	6月19日	7月6日	6/27 ~ 7/15	7月23日	×
	スノーマーチ	6月3日	6月19日	7月6日	6/27 ~ 7/15	7月19日	×

注1) 基準日は萌芽日からの累積危険値が21に到達した日

注2) ○: 初発日が70%信頼区間内、×: 初発日が70%信頼区間外

注3) -: 初発予測日が7月3日より以前の場合、70%信頼区間の計算式がない

2. アブラムシ類 発生量 少

予察ほにおけるにジャガイモヒゲナガアブラムシの発生量は、長沼町では平年よりやや少なく、芽室町および訓子府町では少なかった。ワタアブラムシの発生量は、長沼町および訓子府町で平年より少なかった。芽室町では発生が確認されなかった。モモアカアブラムシは、長沼町でのみ認められたものの寄生虫数は少なかった。

7月6半旬の巡回調査によると、20 複葉当たりの寄生虫数が 20 頭を超える地点はなく、全 63 調査地点の内 51 地点で寄生を認めなかった。

予察ほのばれいしよにおけるアブラムシ類の寄生虫数

月・半旬	ジャガイモヒゲナガアブラムシ						ワタアブラムシ					
	長沼町		芽室町		訓子府町		長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	1.5	1.7	0	3.6	2.0	14.2	0	2.8	0	0.2	0	4.3
2半旬	0	1.2	4.0	6.1	10.0	14.7	0.5	3.5	0	0	0	5.8
3半旬	0	0.6	0	8.4	2.0	15.4	1.0	9.1	0	0.1	0	12.5
4半旬	0	0.5	6.0	12.9	4.0	8.4	1.0	2.9	0	0.4	0	8.8
5半旬	0	0.3	4.0	6.4	0	6.8	0	1.3	0	1.0	0	20.2
6半旬	0	0.4	2.0	2.4	1	8.1	0.5	1.8	0	0.9	0.5	35.3
平年数	10		10		10		10		10		10	

注1) 20 株各 2 複葉、合計 40 複葉を調査。虫数は 10 株 20 複葉あたり換算虫数

注2) 品種は「スノーマーチ」

巡回調査によるばれいしょのアブラムシ類寄生虫数

普及 センター	地点	数	7月3半旬		7月6半旬		本年優占種
			本年	昨年	本年	昨年	
			空知	南東部	1	0	
後志	本所	5	0	0	0	1.2	
胆振	本所	2	0	0.5	0	0	
渡島	本所	2	1.5	3.0	1.0	14.0	
檜山	本所	2	1.0	0	12.0	-	モモアカ、ヒゲナガ
	北部	4	0	0	0	-	モモアカ
上川	富良野	3	0	0	0	0	
	大雪	3	0	2.0	0	0	
	士別	2	0	0	0	9.0	
	名寄	1	0	0	0	0	
網走	本所	6	1.3	1.3	0.2	76.8	ヒゲナガ、ワタ
	清里	3	1.7	2.0	2.0	51.0	ヒゲナガ、モモアカ、ワタ
	網走	2	0	4.5	1.5	10.5	モモアカ
	美幌	2	0	0	2.5	17.5	ヒゲナガ
十勝	本所	4	1.3	7.8	0.0	5.8	ヒゲナガ
	東部	6	0.7	0.3	0.3	3.0	ヒゲナガ、ワタ
	東北部	1	0	0	0	14.0	
	北部	3	0	0	0	0	
	西部	3	2.0	0	0	0.7	ヒゲナガ、モモアカ
	南部	3	0	0	0	0	ヒゲナガ
釧路	本所	2	0	0	0	0	
根室	北根室	3	0	0.3	0	0.3	ワタ

注1)10株20複葉調査

注2)ヒゲナガ: ジャガイモヒゲナガアブラムシ、ワタ: ワタアブラムシ、モモアカ: モモアカアブラムシ

F. てんさい

1. 褐斑病 発生期 並 発生量 やや少

予察ほにおける初発期は、芽室町では平年より早く、長沼町では平年並、訓子府町では平年より遅かった。発生量は、芽室町では平年並、長沼町および訓子府町では平年に比べ少なかった。

巡回調査の報告によると、一般ほにおいては、石狩、胆振、オホーツク、十勝地方で発生が認められた。

予察ほにおけるてんさいの褐斑病発生状況

地点	品種名	初発期		発病度						平年数
				7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	リッカ	7月12日	-	0	-	0.4	-	1.2	-	-
	あまいぶき	7月12日	7月10日	0	0.7	0.5	3.0	1.8	12.8	6
芽室町	リッカ	7月2日	-	8.8	-	9.2	-	13.6	-	-
	あまいぶき	7月2日	7月15日	7.6	0.4	8.0	1.8	12.5	11.5	4
	スタウト	7月2日	7月19日	11.2	0.1	11.2	1.3	14.8	6.1	8
訓子府町	リッカ	7月23日	7月10日	0	0.9	0	3.3	0.8	11.0	6

注)長沼町と芽室町の「リッカ」は平年値なし

一般ほにおけるてんさいの褐斑病巡回調査結果

普及センター	地点数	発病株率(%)		普及センター	地点数	発病株率(%)	
		7月3半旬	7月6半旬			7月3半旬	7月6半旬
空知 南東部	1	0	0	網走 本所	10	0	0.2
石狩 本所	3	0	0.7	清里	3	0	0
後志 本所	3	0	0	網走	2	0	0
胆振 本所	4	3.5	7.0	美幌	5	0.3	0
東胆振	3	3.7	4.7	遠軽	9	0	0.1
上川 富良野	3	0	0	十勝 本所	4	0	1.3
大雪	3	0	0	東部	6	0	0
士別	2	0	0	東北部	4	0	0.3
名寄	1	0	0	北部	3	0	0
				西部	3	0	1.3
				南部	3	0.7	0.7

2. ヨトウガ(第1回) 発生量 やや少

予察ほにおける食害程度は長沼町で平年並、芽室町および訓子府町では平年より低かった。卵塊はいずれの地点も確認されなかった。

7月3半旬の巡回調査において、被害株率が50%以上であるほ場はなかった。

予察ほにおけるヨトウガの産卵塊数および食害程度(50株)

月・半旬	卵塊数(50株あたり)						食害程度					
	長沼町		芽室町		訓子府町		長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	1.0	0	1.1	0	0.1	22.0	25.9	11	14.5	0	3.1
2半旬	0	0.3	0	0.2	0	0.1	37.0	40.4	13	19.9	12	6.3
3半旬	0	0.4	0	0.3	0	0.0	48.0	52.0	17	27.7	13	12.8
4半旬	0	0.3	0	0.0	0	0.0	51.0	60.5	22	35.0	12	20.4
5半旬	0	0.1	0	0.0	0	0.0	56.0	63.9	27	38.2	11	27.2
6半旬	0	0.1	0	0.1	0	0.0	60.5	63.1	29	41.5	13	33.9
平年数	10		10		10		10		10		10	

巡回調査によるてんさいのヨトウガ被害株率および食害程度

普及センター	地点数	被害株率		食害程度		普及センター	地点数	被害株率		食害程度	
		7月3半旬		7月6半旬				7月3半旬		7月6半旬	
		本年	昨年	本年	昨年			本年	昨年	本年	昨年
空知 南東部	1	0%	2.0%	0	2.0	網走 本所	10	4.1%	6.0%	1.5	1.9
石狩 本所	3	19.3%	19.0%	4.3	12.0	清里	3	1.3%	5.3%	3.0	3.5
後志 本所	3	7.3%	0%	25.0	0	網走	2	3.0%	2.5%	6.5	0
胆振 本所	4	16.0%	11.8%	6.1	6.5	美幌	5	0.8%	2.0%	3.6	4.0
東胆振	3	2.3%	6.0%	0	2.7	遠軽	9	7.8%	3.9%	7.1	4.2
上川 富良野	3	4.3%	10.7%	0.7	0.7	十勝 本所	4	3.5%	5.0%	2.5	2.1
大雪	3	2.7%	0%	1.7	1.0	東部	6	3.5%	3.2%	2.2	3.5
士別	2	0.5%	0.5%	0	0	東北部	4	0.5%	0.5%	0	0
名寄	1	8.0%	1.0%	2.0	2.0	北部	3	0%	0%	0.3	0
						西部	3	4.3%	20.0%	4.0	5.7
						南部	3	0.7%	11.3%	2.7	23.0

注1)被害株率:50株調査

注2)食害程度:25株調査

G. たまねぎ

1. 白斑葉枯病 発生量 並

予察ほにおける発生量は、長沼町では平年並、訓子府町では平年に比べやや少なかった。

巡回調査の報告によると、一般ほにおいては全道的に発生が認められ、特に南空知地方において発生が多かった。

予察ほにおけるたまねぎの白斑葉枯病発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	北もみじ2000	32.0	31.5	44.0	42.5	65.0	68.0	6
訓子府町	北もみじ2000	4.5	6.6	5.5	16.1	15.0	22.9	4

一般ほにおけるたまねぎの白斑葉枯病巡回調査結果

普及センター	地点数	発病株率(%)		普及センター	地点数	発病株率(%)		
		7月3半旬	7月6半旬			7月3半旬	7月6半旬	
空知	本所	5	9.6	0	上川 富良野	4	1.5	8.5
	南東部	3	94.3	65.0		士別	2	30.0
	南西部	2	66.0	88.0	網走 本所	8	6.1	8.3
	中空知	1	20.0	15.5		美幌	4	4.0
石狩	北部	2	22.5	50.0	遠軽	3	4.7	4.7
					十勝 東部	1	8.0	20.0

2. ネギアザミウマ 発生量 少

予察ほにおける寄生幼虫数は、長沼町、訓子府町ともに平年より少なかった。被害程度は長沼町、訓子府町ともに平年よりやや低かった。

巡回調査によると、7月6半旬の調査で寄生株率が50%以上であるほ場は、全35地点中、空知、石狩地方の7地点であった。

予察ほにおけるネギアザミウマの発生状況(25株5ヵ所)

月・半旬	幼虫数				被害程度			
	長沼町		訓子府町		長沼町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	4	314	505	1527	22	30.5	40	55.1
2半旬	49	176	582	2102	36	40.6	53	68.1
3半旬	41	490	721	2176	42	46.6	78	78.1
4半旬	50	610	454	2302	50	54.2	81	87.4
5半旬	307	587	389	2187	50	64.9	76	91.1
6半旬	38	442	646	2434	50	72.2	81	91.3
平年数	10		10		10		10	

巡回調査によるたまねぎのネギアザミウマ寄生株率

普及センター	地点数	7月3半旬		7月6半旬		普及センター	地点数	7月3半旬		7月6半旬		
		本年	昨年	本年	昨年			本年	昨年	本年	昨年	
空知	本所	5	10.4%	0%	100%	45.5%	上川 富良野	4	0.5%	2.0%	14.0%	7.0%
	南東部	3	10.0%	3.9%	4.3%	9.4%		士別	2	20.0%	0%	12.0%
	南西部	2	0%	0%	0%	0%	網走 本所	8	3.3%	6.0%	1.0%	13.6%
	中空知	1	1.0%	8.0%	22.0%	12.0%		美幌	4	11.5%	9.3%	8.0%
石狩	江別	2	25.0%	45.0%	50.0%	90.0%	湧別	3	0%	10.7%	1.3%	53.3%
							十勝 東部	1	1	12.0%	10.0%	0%

注)25株調査

H. あぶらな科野菜

1. 軟腐病 発生量 並

長沼町の予察ほ（だいこん）における発生量は、春まき作型では発生が認められなかった。初夏まき作型では平年並であった。

予察ほにおける軟腐病発生状況（だいこん）

地点	作物名	品種名	作型	発病株率(%)						平年数
				7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
				本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	だいこん	おしん 耐病総太り	春まき	0	0.2	0	0.9	0	2.7	10
			初夏まき	-	-	0	0	1.0	0.4	10

注) - : 調査時期外

2. モンシロチョウ 発生量 やや多

予察ほのキャベツにおける寄生幼虫数は、長沼町では平年並で、北斗市では平年より多かった。

予察ほのキャベツにおけるモンシロチョウ幼虫の発生状況

月・半旬	長沼町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	0.1	5	5.2
2半旬	26	9.1	17	20.6
3半旬	12	22.9	51	50.3
4半旬	60	46.0	85	27.0
5半旬	31	39.5	59	44.3
6半旬	4	30.0	61	10.0
平年数	10		10	

注) 10 株あたりの寄生幼虫数

3. コナガ 発生量 やや少

フェロモントラップによる成虫誘殺数は、長沼町では平年よりやや少なく、北斗市、訓子府町では平年並だった。芽室町では平年より少なかった。予察ほのキャベツにおける寄生幼虫数は、長沼町では平年並で、北斗市では平年よりやや少なかった。

フェロモントラップによるコナガ雄成虫の誘殺頭数

月・半旬	長沼町		北斗市		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	34	63.9	37	61.5	0	8.1	2	4.9
2半旬	33	82.0	59	42.5	1	7.5	0	5.6
3半旬	85	145.2	58	42.8	0	6.2	2	6.3
4半旬	110	157.7	38	61.7	0	5.6	4	4.4
5半旬	100	123.9	43	74.6	1	7.1	4	2.1
6半旬	76	110.9	70	86.4	0	5.0	11	2.3
平年数	10		10		10		10	

注) 設置場所はあぶらな科野菜ほ場近辺、芽室町はあぶらな科野菜以外のほ場近辺、訓子府町は雑草地

予察ほのキャベツにおけるコナガ幼虫の発生状況

月・半旬	長沼町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	5.2	3	4.3
2半旬	7	19.6	8	67.5
3半旬	3	52.1	23	39.3
4半旬	27	81.5	74	79.1
5半旬	175	129.7	71	220.3
6半旬	167	128.8	164	56.7
平年数	10		10	

注)10株あたりの寄生虫数

I. りんご

1. 黒星病 発生量 多

長沼町の予察園（無防除）での発生量は、「昂林」、「つがる」とも平年に比べ多かった。余市町の予察園（慣行防除あり）においても発生が認められた。巡回調査の報告によると、一般園においては、7月3半旬現在、発生は認められていない。

予察園におけるりんごの黒星病発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	昂林	13.7	4.9	20.7	8.7	24.3	12.2	7
	つがる	16.3	5.5	21.7	8.6	22.1	9.8	7

余市町の予察園（慣行防除あり）におけるりんごの黒星病発生状況

地点	品種名	病葉率(%)										平年数
		7月第1週		7月第2週		7月第3週		7月第4週		7月第5週		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
余市町B	つがる	0	0	0	0	0	0	1.0	0	1.0	0	10
余市町C	王林	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	—

2. 斑点落葉病 発生量 やや少

長沼町の予察園（無防除）における発生量は新梢、徒長枝ともに平年に比べ少なかった。余市町の予察園（慣行防除あり）では未発生である。巡回調査によると、7月3半旬現在、渡島および留萌地方の感受性品種（デリシャス系）で発生が認められている。

長沼町の予察園（無防除）におけるりんごの斑点落葉病発生状況

地点	品種名	病葉率(%)						平年数
		7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	王林(新梢)	0.43	1.49	1.25	2.53	1.75	3.34	6
	王林(徒長枝)	0	1.59	0.67	1.94	1.33	2.98	6

一般園におけるりんごの斑点落葉病巡回調査結果

普及センター		地点数	病葉率(%)
			7月3半旬
後志	北後志	4	0
胆振	本所	1	0
渡島	本所	1	7.0
留萌	南留萌	1	2.0

3. ハマキムシ類 発生量 少

予察園におけるフェロモントラップによるリンゴコカクモンハマキの誘殺数は、長沼町および余市町Bで平年よりやや少なく、余市町Aでは少なかった。リンゴモンハマキの誘殺数は、平年と比較して長沼町および余市町Bでは少なかった。余市町Aでは平年並だった。

一般園におけるフェロモントラップによるリンゴコカクモンハマキの誘殺数は、岩見沢市では平年よりやや少なく、その他の地点では平年より少なかった。リンゴモンハマキの誘殺数は、七飯町で平年並だったものの、その他の地点では平年より少なかった。

予察園におけるフェロモントラップによるハマキムシ類の誘殺頭数

月・半旬	リンゴコカクモンハマキ						リンゴモンハマキ					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	10	25.6	2	4.6	0	1.7	33	106.3	4	2.1	0	1.7
2半旬	4	8.0	1	2.5	1.0	1.4	19	77.5	1	1.3	0	1.3
3半旬	0	3.8	0	1.2	0	1.8	19	33.8	0	0.8	0	0.3
4半旬	2	2.4	0	1.2	0	1.3	9	17.0	0	0.7	0	0.4
5半旬	1	0.3	0	0.7	3	2.1	4	9.9	0	0.4	0	0.0
6半旬	0	0	0	1.2	2	1.9	2	4.6	0	0.6	1	0.2
平年数	10		10		10		10		10		10	

注) 余市町 A、B の予察園は慣行防除あり。

一般園におけるリンゴコカクモンハマキのフェロモントラップによる誘殺頭数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		伊達市		壮瞥町		七飯町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	1.0	1.6	2.0	7.1	0.9	4.3	0	1.6	0.5	7.8
2半旬	0	0.8	0.8	3.4	1.4	2.4	0	0.7	1.5	5.2
3半旬	0	0.6	0	1.9	0.8	1.4	0	0.1	0	2.8
4半旬	0.5	0.1	0	1.1	0.5	1.8	0	0.1	0	1.5
5半旬	0	0.1	0	0.2	0	2.2	0	0.1	0	0.1
6半旬	0	0.1	0	0.2	0	1.4	0	0	0	0.1
平年数	10		10		10		10		7	

注) 調査地点数は、岩見沢市2地点、札幌市・伊達市・壮瞥町・七飯町各1地点。

一般園におけるリンゴモンハマキのフェロモントラップによる誘殺頭数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		伊達市		壮瞥町		七飯町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0.5	3.7	9.0	24.8	13.9	27.8	0.6	1.4	7.3	4.0
2半旬	0	2.9	15.6	26.7	26.4	34.2	0	1.5	2.8	5.7
3半旬	0.5	2.6	13.0	19.7	17.3	32.8	0.5	1.6	3.7	3.8
4半旬	0.5	2.3	11.7	19.8	13.7	26.5	0.6	1.3	0	1.9
5半旬	1.0	1.4	4.7	17.5	8.6	20.8	0.7	0.8	3.0	0.8
6半旬	0	0.9	0.6	8.7	7.4	8.2	0	0.1	0	0.4
平年数	10		10		10		10		7	

注) 調査地点数は、岩見沢市2地点、札幌市・伊達市・壮瞥町・七飯町各1地点。

4. モモシンクイガ 発生量 並

予察園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、平年と比較して長沼町では少なかった。余市町Aではやや少なく、余市町Bでは平年並だった。長沼町の予察園における産卵数は平年より少なく、被害果率の上昇はやや遅かった。月の後半には平年並に上昇した。

一般園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、平年と比較して札幌市では多かった。岩見沢市、七飯町ではやや多く、壮警町では平年並だった。伊達市、旭川市では少なかった。

巡回調査では、調査対象の7園地いずれにおいても産卵は確認されなかった。

予察園におけるフェロモントラップによるモモシンクイガの誘殺頭数、産卵数および被害果率

月・半旬	フェロモントラップ誘殺頭数						産卵数		被害果率(%)	
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		長沼町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	24	26.6	8	13.6	16	14.4	16	22.2	0	0.1
2半旬	11	58.0	15	17.9	19	18.5	21	80.9	0	2.7
3半旬	24	41.4	19	21.5	28	22.7	65	141.3	5	9.5
4半旬	8	65.3	18	24.5	27	30.6	140	199.8	5	35.9
5半旬	35	44.5	36	34.7	27	44.1	180	195.7	71	53.9
6半旬	33	98.6	18	56.1	49	53.8	115	172.3	67	72.8
平年数	10		10		10		10		10	

注1) 余市町A、Bの予察園は慣行防除あり。

注2) 産卵数は100果あたりの卵数。

一般園におけるフェロモントラップによるモモシンクイガの誘殺頭数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		伊達市		壮警町		七飯町		旭川市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	1.0	2.0	3.0	7.7	3.9	12.5	2.9	6.3	1.5	1.1	10.0	10.3
2半旬	0	6.1	14.0	10.8	5.0	19.5	2.9	7.7	3.5	2.3	2.0	19.6
3半旬	0.5	8.1	21.3	13.8	14.0	27.9	6.6	8.7	16.0	5.8	9.0	23.0
4半旬	7.0	5.6	26.7	12.1	15.0	27.9	7.3	5.9	41.7	12.6	19.0	22.5
5半旬	13.0	4.3	22.9	11.7	10.0	26.7	6.4	3.5	44.3	27.7	—	31.8
6半旬	34.3	5.8	28.2	12.8	11.3	27.2	12.7	3.5	71.3	62.3	—	39.2
平年数	10		10		10		10		7		9	

注) 調査地点数は、岩見沢市2地点、札幌市・伊達市・壮警町・七飯町・旭川市各1地点。

5. ハダニ類 発生量 少

予察園において、リングハダニは長沼町では平年より少なかった。余市町A、Bでは発生が認められなかった。

ナミハダニの発生量は、長沼町では平年並だったが、余市町Aでは平年より少なく、余市町Bでは発生が認められなかった。

予察園におけるハダニ類成虫の発生状況

月・半旬	リングハダニ						ナミハダニ					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	2	2.9	-	0.6	-	0.6	0	0.1	-	2.4	-	4.8
2半旬	0	6.6	0	2.3	0	0.4	0	0.0	5	3.0	0	4.4
3半旬	0	1.8	0	3.8	0	0.0	0	0.1	0	1.3	0	0.0
4半旬	0	3.9	0	0.6	0	1.7	4	0.4	0	7.7	0	6.9
5半旬	2	11.3	-	0.0	-	0.0	0	0.7	-	1.0	-	5.3
6半旬	0	12.8	0	1.3	0	2.0	0	0.7	0	2.9	0	6.8
平年数	10		10		10		10		10		10	

注1)30葉あたりの寄生数。

注2)余市町A、Bの予察園は慣行防除あり。

6. キンモンホソガ 発生量 少

予察園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、いずれの地点も平年より少なかった。被害葉率は長沼町、余市町Bでは平年並で、余市町Aでは被害が認められなかった。

一般園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、平年と比較して札幌市、伊達市ではやや少なく、岩見沢市、壮瞥町、七飯町、増毛町では少なかった。

予察園におけるキンモンホソガのフェロモントラップによる誘殺頭数および被害葉率

月・半旬	フェロモントラップ誘殺頭数						被害葉率(%)					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	11	15.7	5.0	102.9	33.5	59.1	0	0.6	-	0.0	-	0.1
2半旬	4	19.4	7.1	116.8	24.5	83.7	1	0.8	0	0.0	0	0.0
3半旬	15	17.5	8.7	79.6	16.9	69.0	0	0.3	0	0.2	0	0.0
4半旬	17	26.5	9.5	165.7	10.5	37.5	2	0.5	-	0.2	-	0.3
5半旬	12	39.9	7.9	129.3	11.3	60.8	1	3.2	0	2.0	1	1.5
6半旬	6	27.9	35.4	224.5	114.6	122.9	5	5.3	0	1.5	0	0.5
平年数	10		10		10		10		10		10	

注)余市町A、Bの予察園は慣行防除あり。

一般園におけるキンモンホソガのフェロモントラップによる誘殺頭数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		伊達市		壮瞥町		七飯町		増毛町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	2.0	18.4	1.5	1.6	0.3	4.9	33.1	160.2	1.0	158.8	0	138.7
2半旬	0.8	37.1	0.6	1.0	1.4	5.5	74.3	210.8	11.0	231.5	13.4	179.9
3半旬	0.2	33.4	2.0	2.7	2.3	6.2	35.4	254.2	9.0	200.0	6.7	137.3
4半旬	1.5	45.1	0	2.1	3.4	6.0	31.2	236.5	10.0	150.7	0.4	136.9
5半旬	0	25.6	0	1.0	7.1	5.3	53.6	173.6	9.0	82.2	0.4	80.2
6半旬	0.9	11.9	0.6	1.0	3.6	16.0	54.3	156.7	2.7	131.1	1.0	45.8
平年数	10		10		10		10		7		10	

注)調査地点数は、岩見沢市・増毛町2地点、札幌市・伊達市・壮瞥町・七飯町各1地点。

農薬による蜜蜂への被害に注意しましょう!!

水稲の開花期である7月から9月にかけて、多くの養蜂家が道外から道内各地に移動してきており、水田の周辺に蜂場を設置して養蜂を行っている場合があります。

国が実施した調査の結果から、蜜蜂被害は水稲の開花期及びその前後に多く、カメムシ防除の殺虫剤を浴びたことに原因の可能性があると考えられています。

このため、これからカメムシ防除の時期となってきますので、次の点に留意し、被害軽減対策に取り組んでください。

- ① 関係機関や農業団体等は、蜂場の設置場所及びその周辺の水田の農薬散布計画等の情報を相互に共有するとともに、得た情報を養蜂家、周辺の水稲農家に伝え、注意喚起しましょう。
- ② 養蜂家は、蜜蜂がカメムシ防除の殺虫剤に暴露する確率が高い場所には、できるだけ巣箱の設置を避ける、防除が実施される時期には巣箱を退避させましょう。
- ③ 水稲農家は、農薬散布は蜜蜂の活動が盛んな時間帯（午前8～12時）を避け早朝や夕刻に行う、蜜蜂が暴露しにくい形態の農薬（粒剤等）に切り替えましょう。

※ 国の蜜蜂被害調査結果や被害軽減対策の通知等については、農林水産省ホームページをご覧ください。

http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_mitubati/honeybee.html

6月15日～8月31日は農薬危害防止運動実施期間です！

北海道では、農薬の使用に伴う事故・被害を防止するため、農薬を使用する機会が増える6月から8月を期間として、農薬の安全かつ適正な使用や保管管理等を推進する「**農薬危害防止運動**」を実施します。

北海道農政部生産振興局技術普及課
(TEL 011-231-4111 (内線)27-838)
北海道病害虫防除所
(TEL 0123-89-2080)
各総合振興局・振興局農務課



■ 農薬使用に関する注意事項

- 農薬は、農薬取締法に定められた事項が表示されたもの、または特定農薬に該当するものを選び、有効期限内に使い切れる量を購入する。
- 農薬のラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を読んで、十分理解し、表示された濃度や使用量等を守り、必要量以上に農薬を調製しない。
- 散布作業前日は、飲酒を控え、十分な睡眠をとる。体調が優れないときや著しく疲労しているときは、散布作業に従事しない。
- 農薬の使用前には、防除器具等を点検し、十分に洗浄がなされているか確認する。また、農薬の使用後には、防除器具の薬液タンク、ホース、噴頭、ノズル等農薬残留の可能性のある箇所を注意して、洗浄を十分に行う。
- 農薬を散布するときは、必要に応じ、あらかじめ周辺住民等に周知するとともに、看板等を立てるなど現場に近づかないよう配慮する。
特に無人ヘリで防除する場合は、学校や病院等の公共施設及び近隣の住民等に対し、実施予定日時、区域、薬剤等についての事前周知に努める。
- 農薬の飛散による危被害を防止するため、近隣の住民、飼育されている家畜及び蜜蜂、河川等の周辺環境への影響に注意する。
特に無人ヘリで薬剤散布する場合は、有機農産物が生産されているほ場等に農薬が飛散しないよう注意する。
- 農薬の調製及び散布作業中は、マスク、手袋、眼鏡等を着用し、体を防護する。
- 散布作業後は、よくうがいをし、手や顔などの露出部だけでなく入浴し全身を十分洗う。

★ 農薬情報の掲載サイト

農薬の登録情報や農薬取締法等については、農林水産省ホームページの「農薬コーナー」(<http://www.maff.go.jp/nouyaku/>)をご覧ください。

